

地域（磐田市）小規模事業者の動向

【調査の概要】

- 1、調査目的・・・磐田市商工会が小規模事業者の持続的発展を支援するために、当会から見た地域の景況並びに経営課題を把握する。
- 2、調査対象・・・当会の会員企業58社
業種別内訳は、地区内商工業者の構成比率を考慮して、建設業12社、製造業21社（輸送関連5社、その他16社）、小売業10社、飲食業4社、サービス業11社とした。
- 3、調査方法・・・当会の経営指導員による面接聴取によるアンケート調査
- 4、調査内容・・・対前年同月との比較
項目：売上高の増減、仕入単価の変動、利益の増減、資金繰りの変化、人材の充足度
- 5、分析方法・・・各項目について、プラス傾向（増加、上昇、好転、過剰）から、マイナス傾向（減少、低下、悪化、不足）の構成比を差し引いた数値（判断指数）・DIをもとに分析した。

（注）今回調査は平成28年度初回の為、前回調査との増減比較による改善の方向性は見なかった。

（注）地域金融機関の景況調査（静岡県西部地域しんきん経済研究所）の調査結果も活用し地域の動向を把握することとした。

【製造業の状況】

<磐田地区製造業の景況感>

原材料費は上昇気味、売上高、利益共に変化なく、横ばい圏内にある。



●売上額の動向

売上額DI（増加ー減少）は、当会調査では製造業全体は±0.0。輸送関連製造業とその他製造業を区分してみた場合も共に売上額DI±0.0であった。

静岡県西部地域しんきん経済研究所（以下では、しんきん経済研究所と略称する）による調査では、製造業全体で-16.6であった。前期比では2.3%の悪化となっている。

●仕入単価の動向

仕入単価DI（上昇ー下降）は、当会調査では製造業全体は28.57。輸送関連製造業とその他製造業では、前者は仕入単価DI±0.0、後者は37.5である。その他製造業の材料価格の上昇が顕著である。

しんきん経済研究所では製造業全体で-1.10であった。前期比では3.2%の改善となっている。

●利益の動向

利益DI（増加ー減少）は、当会調査では製造業全体は±0.0。輸送関連製造業とその他製造業では、前者は利益DI-20.0、後者は±0.0であった。

しんきん経済研究所では製造業全体で-17.0であった。前期比では1.3%の悪化となっている。

●資金繰りの動向

資金繰りD I（好転－悪化）は、当会調査では製造業全体で23.81。輸送関連製造業とその他製造業では、前者は資金繰りD I ±0.0、後者は31.3であり、その他製造業の改善が大きい。しんきん経済研究所では製造業全体で-9.8であった。前期比では5.2割の改善となっている。

●人手の動向

人手D I（過剰－不足）は、当会調査では製造業全体で±0.0。輸送関連製造業とその他製造業では、共に人材D I ±0.0であった。適度の人員が確保されていると判断される。しんきん経済研究所では製造業全体で-8.4であった。前期比では1.6割の改善となっている。

●調査員コメント

- ・工具類の管理や修繕を社内に対応するなどの経費削減に取り組んでいる。（機械）
- ・機械を入れ替え、製品の質を向上させることにより売上の拡大を図る。（織物）
- ・短納期、小ロット（他社がやりたがらない細かな）の仕事を受注し、売上を確保する。（織物）
- ・経営課題は仕事量を確保すること・受注価格の低下に対応すること・老朽化設備の更新。（機械）

【建設業の状況】

<磐田地区建設業の景況感>

売上高の減少、材料価格の上昇、利益の減少という状況にあり、厳しい景況にある。



●売上額の動向

売上額D I（増加－減少）は、当会調査では-50.0、しんきん経済研究所では-29.7であった。しんきん経済研究所の調査によると、前期比では1.3割の悪化となっている。いずれの調査でも売上高の減少感が強い。

●仕入単価の動向

仕入単価D I（上昇－下降）は、当会調査では16.7、しんきん経済研究所では18.8であった。いずれの調査でも仕入価格の上昇感は強い。

●利益の動向

利益D I（増加－減少）は、当会調査では-33.3、しんきん経済研究所では-20.3であった。いずれの調査でも利益の減少感が強い。

●資金繰りの動向

資金繰りD I（好転－悪化）は、当会調査では-16.7、しんきん経済研究所では-17.2であった。資金繰りの悪化感が強い。しんきん経済研究所の調査によると、前期比では12.7割の悪化となっている。

●人手の動向

人手D I（過剰－不足）は、当会調査では－8.3、しんきん経済研究所では－19.0であった。人材が少し不足している。しんきん経済研究所の調査によると、前期比では11.5割の悪化（不足）となっている。

●調査員コメント

- ・丁寧な仕事をして信頼を得ているが、住宅着工数が減少している。
- ・木造建築の仕事が減少し、リフォームの仕事が多くなった。
- ・事業主は高齢化しているが地元で根づいた仕事を続けていきたい。
- ・事業主は高齢化し、後継者がいない。廃業も検討。

【小売業の状況】

<磐田地区小売業の景況感>

売上高の減少、仕入価格の上昇、利益の減少という状況にあり、厳しい景況にある。



●売上額の動向

売上額D I（増加－減少）は、当会調査では－50.0、しんきん経済研究所では－24.5であった。売上高が減少と捉えている会社が多い。

しんきん経済研究所の調査によると、前年同期の売上額D Iは－23.4だった。

●仕入単価の動向

仕入単価D I（上昇－下降）は、当会調査では30.0、しんきん経済研究所では5.7であった。仕入価格の上昇感は強い。

しんきん経済研究所の調査によると、前期比では13.1割の改善となっている。

●利益の動向

利益D I（増加－減少）は、当会調査では－50.0、しんきん経済研究所では－30.2であった。いずれの調査でも利益の減少感は強い。

●資金繰りの動向

資金繰りD I（好転－悪化）は、当会調査では－20.0、しんきん経済研究所では－15.1であった。資金繰りの悪化感がある。

●人手の動向

人手D I（過剰－不足）は、当会調査では－10.0、しんきん経済研究所では－13.2であった。少し人材の不足感がある。

●調査員コメント

- ・商工会の催事展開に参加して、販路拡大を図っている。
- ・新規分野の商品販売を検討中。ただし、採算面と繁忙期の人手不足が不安である。
- ・小規模事業持続化補助金の採択をうけ、新規事業に着手した。

- ・経営課題は「売上の拡大と従業員の採用・育成」である。

【飲食業＋サービス業の状況】

＜磐田地区飲食業＋サービス業の景況感＞

売上高の減少、利益の減少という状況にあり、厳しい景況である。



●売上額の動向

売上額D I（増加－減少）は、当会調査では－33.3、しんきん経済研究所では±0.0であった。しんきん経済研究所の調査によると、前期比では14.3㊦の悪化となっている。当会としんきん経済研究所の調査には差がある。調査対象会社の事業内容（車修理など）による差が考えられる。

●仕入単価の動向

仕入単価D I（上昇－下降）は、当会調査では±0.0、しんきん経済研究所では25.0であった。しんきん経済研究所の調査によると、前期比では17.9㊦の改善となっている。

●利益の動向

利益D I（増加－減少）は、当会調査では－33.3、しんきん経済研究所では－8.3であった。しんきん経済研究所の調査によると、前期比では22.6㊦の悪化となっている。いずれの調査でも利益の減少感は強い。

●資金繰りの動向

資金繰りD I（好転－悪化）は、当会調査では－6.7、しんきん経済研究所では－16.7であった。しんきん経済研究所の調査によると、前期比では26.2㊦の改善となっている。

●人手の動向

人手D I（過剰－不足）は、当会調査では－13.3、しんきん経済研究所では－33.3であった。少し人材の不足感がある。

●調査員コメント

- ・他地域からの注文が増加している。更に拡大したい。（食事）
- ・新作メニューや店内のPOP等で売上拡大の取組をしている。（食事）
- ・事業主は高齢化し、後継者がいない。（複数）
- ・新規分野の事業（リフォーム）を始めた。